

## 平成19年木材（用材）需給見通しの見直しの概要

### 1 見直しの趣旨

本年3月に作成した「平成19年木材（用材）需給見通し」（以下「当初見通し」という。）について、本年上半期の需給実績及び下半期の需給動向等を勘案し、見直しを行った。

### 2 見直しの概要

製材用の需要については、前年に比べて新設木造住宅着工戸数がやや減少し、一戸当たりの新設木造住宅着工床面積がわずかに減少するものと見込まれることなどから、前年比2.2%減になるものと見通される。

合板用の需要については、新設木造住宅着工戸数の減少等が見込まれることや在庫の状況などから、前年比7.4%減になるものと見通される。

パルプ・チップ用の需要については、紙・板紙生産量が前年をわずかに下回ることなどから、前年比2.7%減になるものと見通される。

その他用の需要については、木質ボード類に対する需要増が見込まれることなどから、前年比10.1%増になるものと見通される。

この結果、総需要量は当初見通しを304万m<sup>3</sup>下回る8,436万m<sup>3</sup>程度（前年比2.8%減）になるものと見通される。

なお、供給面では、国産材は1,792万m<sup>3</sup>程度（前年比1.7%増）、輸入材は6,644万m<sup>3</sup>程度（前年比4.0%減）になるものと見通される。